

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日（土）～14日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

ワークショップ 32	
企画名	実践！グラム染色ハンズオンセミナー ～喀痰グラム染色・はじめの一步～
日時	2017年5月14日（日） 13:45～15:15
会場	第3会場（サンポートホール高松 ホール棟 5F 54会議室）
企画責任者	佐野 良仁（佐野内科リハビリテーションクリニック）
定員	15名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b></p> <p>2016年4月、関係閣僚会議により『AMR（薬剤耐性）アクションプラン』が策定されました。その中に掲げられている6本柱の中の一つが「抗菌薬の適正使用」です。では現場で実際に、どのような方法でそれを実現すればよいのでしょうか。</p> <p>目の前の患者が感染し発症している疾患の起炎菌が、グラム染色により迅速に簡便に見える化できる場合、抗菌薬は何を選択すべきか、決定しやすくなります。グラム染色では病原微生物が確認できない、という所見もまた、診断の手がかりの一つとなります。しかし、これまでのキャリアの中で、グラム染色を学ぶ機会がなかった方もいるかと思われます。</p> <p>このセミナーでは、一度もグラム染色を行ったことのない方のためのセミナーです。実際に染色をして起炎菌の同定を行ってみます。グラム染色を身近に感じる事で、自らの診療現場における診断手技の一つとして導入できることを目的として企画しました。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>本セミナーは、『初歩から学ぶグラム染色ハンズオンセミナー』です。しかし、セミナー終了後には道具さえそろえば、明日にでも始められることを目標とします。</p> <p>まず、痰の喀出のさせ方から学び、喀出された痰が適切な検体か否かを見分ける肉眼的分類「Miller&amp;Jones分類」を学びます。そして、喀痰をスライドグラスに伸ばす時のコツ、乾燥固定後のグラム染色（グラムハッカー変法にて行います。）の仕方、検鏡同定の仕方、判断に適した痰か否かを見分ける顕微鏡的分類「Geckler分類」を学び、確認した原因微生物の推定、原因微生物に基づいた抗菌薬の考え方を学びます。</p> <p>上記を30分ほど座学で学んだ後、3グループほどに分れて、模擬痰を使って、各自で標本作成を実施し、染色・検鏡同定します。その後、グループで推定菌種を確認し合い、選択すべき抗菌薬を考察します。抗菌薬の適正使用に向けての一手段として、手技獲得を目指します。</p>	